

多世帯居住に関する研究開発

【代表者】

河崎 由美子 積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 住生活研究所長

【共同研究者】

王 飛雪 大阪市立大学 生活科学研究科 特任助教

小伊藤 亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

戦後の日本では、核家族化が進行し、さらに近年は単身世帯や夫婦のみ世帯など少人数世帯が増加し、従来型の三世代居住世帯はますます減少傾向にある。しかし、今後急速に押し寄せる少子高齢の課題に直面する中、支え合いやコミュニケーションを伴う多様な形態での多世帯居住の存在価値がクローズアップしてくると予想される。

本研究は、介護、子育て等の相互ケア、生活の共同化の視点から、「多世帯居住の暮らし」とその経年変化に着目する。現代における多様な多世帯居住の動向とニーズを把握し、ライフスタイル別クラスターを設定した上で、対応する住まい型提案を行うことを目的とする。

【研究成果（報告書より抜粋）】

- a) 近居の親世帯と子世帯を対象とした多世帯居住アンケート調査
 (N=1236、内訳：親世帯 N=618、子世帯 N=618、総 51 問)
 報告書作成完了、積水ハウス社内にて研究発表会を実施。
- b) 多世帯居住事例訪問調査（予備調査）（積水ハウスオーナー様邸 N=1）
 報告書作成完了。

研究業績		
※助成期間中に本研究課題を基に発表した著書、学術論文、学会発表、報告書等		
著書名/論文名/発表タイトル 等	発表年	出版社名/掲載雑誌名/学会名等
近居の親子世帯のライフスタイルに関する研究（1） つながり居住によるコミュニケーションの実態について	2019	日本家政学会全国大会 第 71 回大会
近居の親子世帯のライフスタイルに関する研究（2） つながり居住による相互サポートの実態について	2019	日本家政学会全国大会 第 71 回大会
近居の親子世帯のライフスタイルに関する研究（3） つながり居住に対する満足度と意識について	2019	日本家政学会全国大会 第 71 回大会
近居の親子世帯のライフスタイルに関する研究 つながり居住による行き来の実態について	2019	日本建築学会近畿支部 研究発表会
The Lifestyle of Parent-Child Households Living Near with the View of Parenting: A Study on Living Space Concerning Connected Residence	2019	ARAHE The 20th Biennial International Congress 2019
子育て視点から見た近居親子世帯のライフスタイル （1） つながり居住による行き来の実態について	2019	2019 年度日本建築学会 大会（北陸）
子育て視点から見た近居親子世帯のライフスタイル （2） つながり居住による相互サポートの実態について	2019	2019 年度日本建築学会 大会（北陸）
子育て視点から見た近居親子世帯のライフスタイル （3） つながり居住のきっかけと住意識について	2019	2019 年度日本建築学会 大会（北陸）